

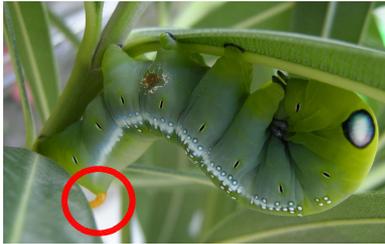
鹿児島県の昆虫25 温暖化のバロメーター？キョウチクトウスズメ

昆虫担当 金井 賢一

キョウチクトウスズメは成虫が迷彩色のきれいな蛾です。幼虫はキョウチクトウやニチニチソウの葉を食べて成長します。

キョウチクトウは夏に赤や白の鮮やかな色の花が咲き、乾燥にも強いので町中にたくさん植えられている植物ですが、いわゆる毒のある植物です。

キョウチクトウの葉を食べる昆虫は他にあまり見られないので、葉にギザギザの食痕しよっこんがあったり、下に丸いフンがたくさん落ちたりしていると、「幼虫がいるな！」と思って間違いありません。約10cmにもなる大きな幼虫は、青い目玉模様を持つイモムシです。スズメガの仲間なので、



キョウチクトウスズメ幼虫

幼虫の尾部に緑色の角が1本ありますが、終齢幼虫ではオレンジ色に変わります（写真左奥の円内）。

さて、毎年のように観察される本種ですが、実は鹿児島県本土には越冬できない偶産蛾ぐうさんかとして有名です。もともとはアフリカからインド、東南アジアにかけ



キョウチクトウスズメ成虫

て生息し、南からの季節風や台風などで渡ってきた後何世代か発生しますが、越冬したという記録は現在のところ無いようです。もしも春早くに本種を見た時は要注意です。それは温暖化のせいかもしれません。

鹿児島県の植物33

屋久島高地の植物

植物担当 大屋 哲

今年6月から9月にかけて屋久島の太忠岳や花之江河、黒味岳などに生える植物の調査を行いました。その時、花が咲いていた高地に生える屋久島固有の植物を紹介します。

○ヤクシマホツツジ ツツジ科

花期7～8月

高さ1m～2mの落葉の低木です。明るい林縁や岩場などに生えます。枝先に白や少し赤みがかかった花を垂直に咲かせる姿から、「穂ツツジ」と名がついたと言われています。黒味岳の登山道沿いや山頂付近に生えていました。



ヤクシマホツツジ

○シャクナンガンピ ジンチョウゲ科

花期6～8月頃

高さは50cm～150cmで、標高1600m付近

より高所に生え、枝先にうすい赤紫色の花を咲かせます。黒味岳に登る林道沿いの茂みや岩場に生えていました。



シャクナンガンピ

○ヤクシマアザミ キク科

花期8～10月

高さは30cmぐらいで、1000m付近より高所の明るい登山道沿い等に見られるアザミです。小花之江河の手前から宮之浦岳に向かう登山道沿いに多く生えていました。



ヤクシマアザミ

その他、ヤクシマカラマツ、ヤクシママコナ、ツクシゼリ、ヤクシマダイモンジソウなども見られました。